

# 今月の主要経済指標



## 目次

今月の経済関係統計資料	
1 宮崎県景気動向指数 .....	1
2 宮崎県の鉱工業指数 .....	2
3 みやざきの賃金・労働時間・雇用の動き .....	3
4 宮崎市の消費者物価指数 .....	4
【参考】	
・ 「月例経済報告」抜粋 .....	5
・ データ編 .....	6

平成27年9月



宮崎県総合政策部統計調査課



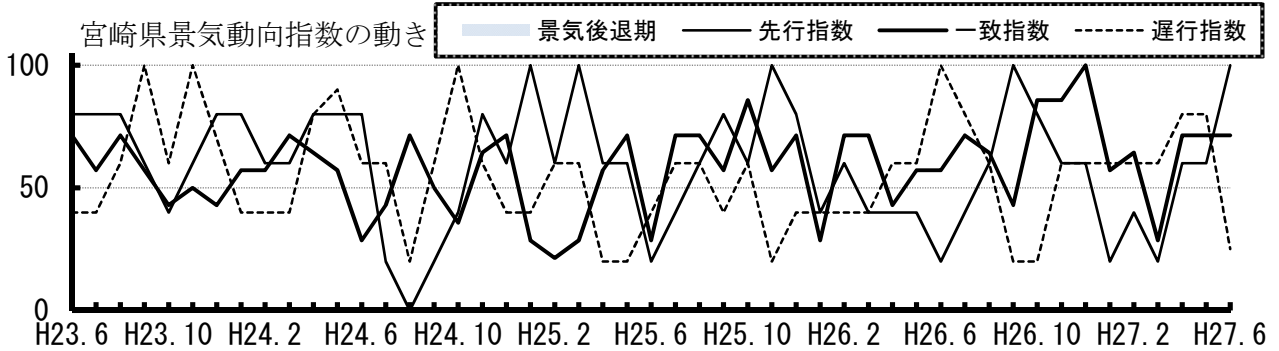
(平成27年国勢調査 イメージキャラクター)



# 1 宮崎県景気動向指数（平成27年6月分）

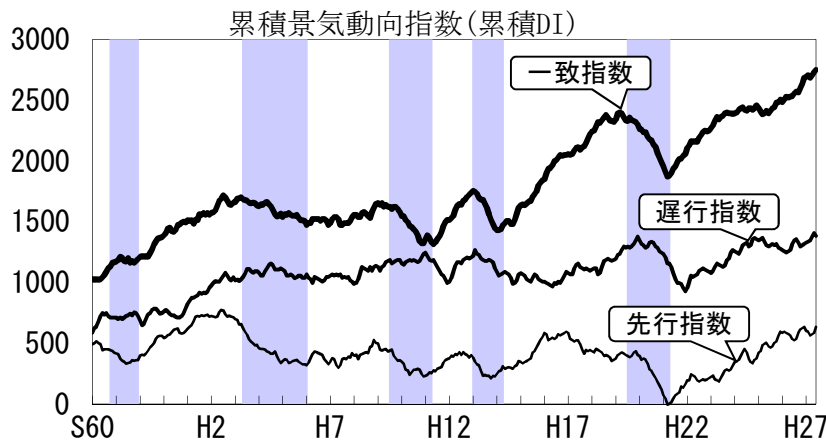
## (1) 今月の動き

平成27年6月の本県のDIは、  
 先行指数は100.0%となり、3か月連続で 50.0%を上回った。  
 一致指数は 71.4%となり、3か月連続で 50.0%を上回った。  
 遅行指数は 25.0%となり、8か月ぶりに 50.0%を下回った。



	採用 指標数	拡張 指標数	プラスの指標（拡張指標）	マイナスの指標
先行系列	5	5	新規求人数（パート含む）、新車登録台数（乗用車）、鉱工業在庫率指数（逆）、新設住宅着工戸数、ホテル・旅館宿泊客数	なし
一致系列	7	5	有効求人倍率、大口電力使用量、鉱工業生産指数、鉱工業出荷指数、雇用保険受給者実人数（逆）	大型小売店販売額（実質）、輸入通関実績（実質）
遅行系列	4	1	資本財出荷指数	鉱工業在庫指数、家計消費支出（勤労者世帯）、消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）

## (2) 累積景気動向指数



シャドウ部分：景気後退期

- 見やすくするため、先行指数には 500、一致指数には1000、遅行指数には 600をそれぞれ加算している。

### (参考)

**景気動向指数**： 景気が上向きか、下向きかを総合的に示す指数である。50%を上回って推移しているときは景気拡張局面、下回って推移しているときは景気後退局面と判断される。

**累積景気動向指数**： 各指数から景気判断の基準となる50を引くことで、景気の拡張・後退の動向だけを確認することができる指数である。







**\* 参考資料**

**「月例経済報告」抜粋（平成27年8月26日：内閣府）**

**【基調判断】**

7月月例	8月月例
<p>景気は、緩やかな回復基調が続いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人消費は、<u>持ち直しの兆しがみられる。</u></li> <li>・設備投資は、このところ持ち直しの動きがみられる。</li> <li>・輸出は、<u>おおむね横ばいとなっている。</u></li> <li>・生産は、このところ横ばいとなっている。</li> </ul> <p>・企業収益は、総じて改善傾向にある。企業の業況判断は、おおむね横ばいとなっているが、一部に改善の兆しもみられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用情勢は、改善傾向にある。</li> <li>・消費者物価は、緩やかに上昇している。</li> </ul> <p>先行きについては、雇用・所得環境の改善傾向が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、中国経済をはじめとした海外景気の下振れなど、我が国の景気を下押しするリスクに留意する必要がある。</p>	<p>景気は、<u>このところ改善テンポにばらつきもみられるが、</u>緩やかな回復基調が続いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人消費は、<u>総じてみれば底堅い動きとなっている。</u></li> <li>・設備投資は、このところ持ち直しの動きがみられる。</li> <li>・輸出は、<u>このところ弱含んでいる。</u></li> <li>・生産は、このところ横ばいとなっている。</li> <li>・企業収益は、総じて改善傾向にある。企業の業況判断は、おおむね横ばいとなっているが、一部に改善の兆しもみられる。</li> <li>・雇用情勢は、改善傾向にある。</li> <li>・消費者物価は、緩やかに上昇している。</li> </ul> <p>先行きについては、雇用・所得環境の改善傾向が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、中国経済をはじめとした海外景気の下振れなど、我が国の景気を下押しするリスクや金融資本市場の変動に留意する必要がある。</p>

**【各論】**

	7月月例	8月月例
個人消費	<u>持ち直しの兆しがみられる。</u>	<u>総じてみれば底堅い動きとなっている。</u>
設備投資	このところ持ち直しの動きがみられる。	このところ持ち直しの動きがみられる。
住宅建設	<u>持ち直しの動きがみられる。</u>	<u>持ち直している。</u>
公共投資	総じて弱い動きとなっている。	総じて弱い動きとなっている。
輸出	<u>おおむね横ばいとなっている。</u>	<u>このところ弱含んでいる。</u>
輸入	<u>おおむね横ばいとなっている。</u>	<u>このところ弱含んでいる。</u>
貿易・サービス収支	赤字は、おおむね横ばいとなっている。	赤字は、おおむね横ばいとなっている。
生産	このところ横ばいとなっている。	このところ横ばいとなっている。
企業収益	総じて改善傾向にある。	総じて改善傾向にある。
業況判断	おおむね横ばいとなっているが、一部に改善の兆しもみられる。	おおむね横ばいとなっているが、一部に改善の兆しもみられる。
倒産件数	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。
雇用情勢	改善傾向にある。	改善傾向にある。
国内企業物価	<u>このところ上昇テンポが鈍化している。</u>	<u>このところ横ばいとなっている。</u>
消費者物価	緩やかに上昇している。	緩やかに上昇している。
海外経済	<p>世界の景気は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復している。</p> <p>先行きについては、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、アメリカの金融政策正常化に向けた動きの影響、ヨーロッパ、中国やその他新興国経済の先行き、原油価格下落の影響、地政学的リスク等について留意する必要がある。</p>	<p>世界の景気は、アジア新興国等において弱さがみられるものの、全体としては緩やかに回復している。先行きについては、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、アメリカの金融政策正常化に向けた動きの影響、アジア新興国等の経済の先行き、原油価格下落の影響、地政学的リスク等について留意する必要がある。</p>

(注) 下線部は、先月から変更した部分。







